

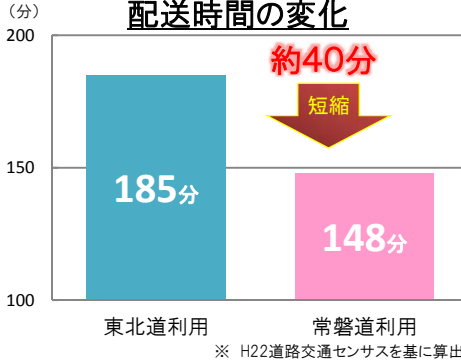
物流効率化や高速バスの定時性確保に寄与

- 仙台を拠点とする物流企業では、仙台～水戸間の配送時間が1往復当たり約80分短縮
- 時間短縮により1人のドライバー月あたり配送可能回数が2回増加し、生産性が10%向上

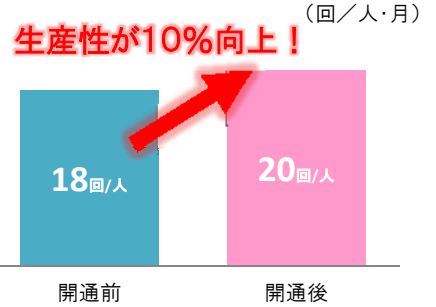
▼仙台～水戸間の配送ルート



▼仙台～水戸間の配送時間の変化



▼仙台～水戸間の配送可能回数の変化



■ 物流会社の声



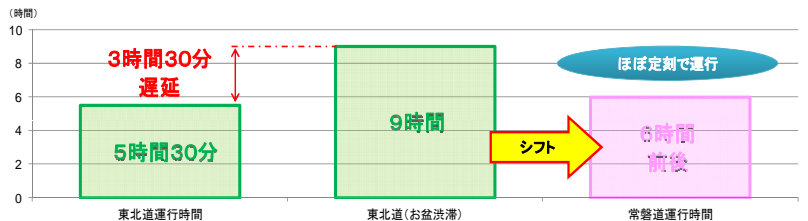
- 仙台市から水戸市へ配送している。常磐道全線開通を機に、配送ルートを東北道から常磐道へ変更し、1回の配送時間が往復約80分短縮
- ドライバーは1カ月の拘束時間に制約があるため、1人あたりの配送可能回数は、18回/月が限界であったが、開通後は20回/月に増加
- 常磐道の開通による物流効率化は、課題であるドライバー不足に対しても有効であり、目に見えない効果も大きい

【トピックス】東北道の渋滞・通行止め時に高速バスが常磐道を代替路として活用

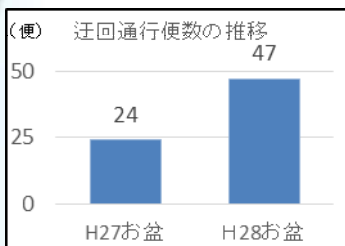
- 仙台⇄東京方面を結ぶ高速バスは毎日約50往復100便、1ヶ月間に約5万人以上※を運ぶ大動脈
 - お盆・ゴールデンウィークには東北道の渋滞に巻き込まれ、定時性を確保することが困難(最大3.5時間の遅れ)
 - 常磐道全線開通以降、東北道の渋滞状況に応じて一部の便が常磐道に迂回運行を行い定時性を確保
- ※臨時便を除く、東京、千葉、神奈川発着を対象



定時性確保のため交通状況に応じて常磐道にシフト



お盆の交通が東北道から常磐道にシフト



■ バス事業者の声



- 常磐道全線開通以降、東北道の渋滞状況を見ながら、一部の便を常磐道に迂回運行し、定時性を確保した。
- 東北道と常磐道の2本の軸ができたことで、運行の安心感が向上するとともに、定時性の確保にも寄与している。